

教授 高次 信也

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例	2016年度前期	パワーポイント、DVDによるスライド、動画を用いた講義、車輛形態の講義とテスト実施、測定技術図学指導、造形モデリング指導、グループディスカッション、立体のマルチアングル評価、プレゼンテーションロールプレイ
	2016. 6	学外授業 ウェルフェア（福祉機器展）、防災フェア視察
	2016年度後期	パワーポイント、DVDによるスライド、動画を用いた講義、造形モデリング指導、グループディスカッション、プレゼンテーションロールプレイ 企業とのコラボレーションワーク実施
	2016. 10	学外授業 トヨタ博物館視察
◎作成した教科書・教材		パワーポイントデータによるスライド、動画資料 車輛形態講座資料、試験問題、測定技術、図学指導資料
◎その他	2016. 5. 28 2016. 8. 29・30	自動車技術会主催「人と車のテクノロジー展」でフォーラム「未来のパーソナルモビリティ」を企画。運営 自動車技術会デザイン部門委員会主催 二輪デザイン公開講座（大学1、2年生対象）を企画、運営

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
	2016年度後期	トヨタ車体株式会社との産学共同プロジェクト 「小型EV車輛のデザイン提案」を実施

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
自動車技術会活動レポート 2016年度春季大会 デザイン部門委員会企画 フォーラム 「出かけよう！未来のパーソナルモビリティで」その他	共著	2016. 10	自動車技術会発行 「自動車技術」誌Vol. 16 pp. 98-102	これからの時代の交通システム、街づくりの方向性と課題は超小型モビリティの価値を認識し高齢者や交通弱者のためにも、既存の乗用車と公共交通の間を取り持つ乗り物が必要。パーソナルモビリティはシェアリングエコノミーとの関係を深め、行政や経済界、IT業界などと有機的に連携し、共存共栄を目指さないと実現できない。新しい乗り物として、制度設計、街づくり、道路整備、安全安心の確保、楽しさの追求、新しいライフスタイルを作ってゆくという観点で、社会受容性を確保したエコシステムの構築が必要。トヨタ、ホンダの事例紹介。（共著者） 高嶋晋治、内藤功一、石橋豊、菅原重昭、高次信也、難波治、服部守悦

				<p>(本人分担)</p> <p>福祉機器を特殊なプロダクトではなく、ライフスタイルに寄り添う商品としてアピール。「バリアフリーのバリアはハードウェアではなく、人々の意識のほうにあるのではないか。この“意識のバリア”をどう壊し、ポジティブに創造的に混ざり合っているのかを考え、「車椅子に乗るというシーンに人々が憧れるということはないだろうけれども、“車椅子に乗るのも、別に悪くないかもね”と思える未来にしたい」</p>
--	--	--	--	---